

感動一点の場

『前へ進む群れB』 (倶知安小学校蔵)

1957年 小川原 脩 画



この作品は倶知安小学校所蔵ですから、見覚えのある方もいらっしゃるかもしれません。およそ縦130センチ、横160センチの大きな作品で、校長室に飾られています。

以前、倶知安小学校2年生の授業にお邪魔し、児童の皆さんと、この「前へ進む群れB」の鑑賞に取り組みました。まずは「何がありますか」の質問に「ダイヤ」との声。トランプのダイヤに見えたのでしょうか。「端っこに丸いのが二つあるから、目だ！」と気がつけば、次々に顔、耳、そして細長いひし形の馬の頭が並んでいる様子が浮かび上がってくるのです。そして、一頭一頭の馬の姿かたちが異なることにも視線が注がれ、「こんな子もいるよ」と楽しそうに発見を伝え合います。次第に、馬たちはなぜ前進してくるのかという本題へと迫っていく…一人一人の視点を共有し、豊かな鑑賞の時間となりました。

ぜひ本作を見たいと思った方。校長先生はきっと笑顔で迎えてくださるでしょうが、訪問は少し緊張してしまいますよね。じっくり見られるチャンスがこの夏にやってきます。8月10日から美術館で開催される「開館20周年記念特別展 小川原脩の世界」にお借りして展示する予定です。

文：沼田 絵美 (小川原脩記念美術館 学芸員)

—侵略的外来種アライグマ その2—

ふる探訪

435回

平成30年、道内の156市町村でアライグマの生息が確認されています。捕獲頭数は、平成18年に1,724頭だったのが、現在は16,182頭と約10倍に増えています。アライグマが外来種として問題になる理由は、大きく分けて2つあります。一つは生態系への影響です。基本的に水辺に生息するアライグマは、カニやザリガニを好んで食べます。絶滅危惧種のニホンザリガニも捕食の対象となり、まさに絶滅の危機に直面しています。また、生息環境や食性が類似するタヌキは、一回り体の大きなアライグマにすみかを追われ、生息数の減少が確認されています。野幌森林公園では、アオサギのコロニー(定住している集団)の消滅が、アライグマの影響であると疑われています。また、天然記念物であるシマフクロウの巣の近くにアライグマの足跡が確認されており、繁殖が不安視されるなど、貴重な生態系への影響が懸念されています。

もう一つは、農業被害による経済的な影響です。平成29年度のアライグマによる農業等被害額は、道で約9千800万円、後志で約1千500万円と報告されています。被害の30%はスイートコーンで、倶知安でも被害が報告されています。他にも、野菜や果物、家畜飼料などアライグマの食性の広さが被害を拡大させています。

他にも危険な影響として、狂犬病、アライグマ回虫、レプトスピラなど人畜共通感染症や寄生虫を媒介するおそれがあります。いずれも感染すれば、死亡リスクのある危険な感染症で、道内で捕獲されたアライグマから、肝障害を引き起こす可能性のあるレプトスピラが確認されています。アライグマによる脅威はすぐそこまで迫っています。

文：森脇 友行 (倶知安風土館 学芸補助職員)



絶滅危惧種Ⅱ類
ニホンザリガニ

展覧会のお知らせ

■常設展示

小川原脩展 「私の中の原風景」

アジア各地を旅し、自らの原風景を再発見した小川原脩。大いなる自然と素朴な人々の暮らし、動物たちとの対等な関係など、幼少の頃を過ごした北海道開拓期と重なる世界観を展開する作品群を中心に、画業全体の根底に流れるイメージの原型を探ります。

会期：開催中～8月4日(日) 会場：第1展示室

■企画展示

しりべしミュージアムロード共同展

「晴れ ときどき曇り、ところにより雪」

岩内・共和・倶知安・ニセコに点在する5つのミュージアムの共同企画展。今年は天気テーマです。※初日観覧無料

会期：7月13日(土)～9月23日(月)

会場：第2展示室



アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン

世界美術館紀行Ⅳ～スペイン・ポルトガル編～「カタルーニャ美術館/ミロ財団美術館/カルスト・グルベンキアン美術館」

4月からの新企画。お話しと映像で世界の美術館を訪ねます。

日時：7月6日(土)14時～15時30分

お話し：柴 勤 (当館館長) 会場：当館映像ルーム (無料)

アート探訪くみて・きいて>32「ポスト印象派①」

新時代を告げる1886年の印象派展。モネやシスレー、ドガなど代表的な画家を取り上げます。

日時：7月20日(土)14時～15時

お話し：柴 勤 (当館館長) 会場：当館映像ルーム (無料)

■アート・トーク

「しりべしミュージアムロード共同展『晴れ ときどき曇り、ところにより雪』の楽しみ方」

ミュージアムロード5館それぞれの天気まつわる展示の見どころと、当館テーマ「青空！」にちなんだ作品を解説します。

日時：7月13日(土)10時～10時30分

お話し：沼田絵美 (当館学芸員) 会場：当館第2展示室 (展覧会初日のため無料)

■ミュージアム・コンサート

「オカリナ日和」

北海道を代表するオカリナ奏者として活躍する椎名春奈さんの心温まる音色をお楽しみください。

日時：7月13日(土)14時～15時 会場：当館ロビー (無料)

出演：椎名春奈さん (オカリナ) / 松岡亜弥子さん (ピアノ)

■アート・シネマ館

「ヴェルサイユの宮廷庭師」2015年/117分/イギリス (字幕)

王宮の庭園が誕生した裏側には、一人の女性庭師の存在と秘められたロマンスがあったのです。

日時：7月27日(土)14時～16時10分 お話し：柴 勤 (当館館長) 会場：当館映像ルーム (無料)



小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観覧料：一般 500円 (400円)
高校生 300円 (200円)
小中学生 100円 (50円)

倶知安風土館 ☎22-6631

観覧料：一般 200円 (100円)
高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時

入館は16時30分まで

※()内は10名以上の団体料金

7月の休館日 毎週火曜日
8～12日 (展示替えのため)

「走る学芸員」と呼ばれて

5月に洞爺湖、6月は千歳。実はこれ、私が参加したマラソン大会なのです。季節が進むにつれて、道内各地ではかなりの数の大会が催され、実に多くのランナーが集まります。洞爺湖は7千人、千歳にいたっては約1万人です。

足の痛みや苦しい呼吸にも耐えに耐え、虚脱状態になりながら走り抜く42キロ。そして翌日からは、静かな美術館の空間で仕事に携わる。そんな生活を30年近く送ってきました。美術作品に向き合うことと身体能力に挑むこと。どうやら自分の中では同居しているようなのです。

館長 柴 勤